

脳 PET 検査に使う薬剤について

Neuraceq 300MBq 溶液

フロルベタベン(18F)注射液(Neuraceq の一般名)

◎この薬(フロルベタベン)の投与を受ける前に説明文をよくお読み下さい。

1. Neuraceq とは何か、何のために使われるのか
2. Neuraceq を使用する前に知っておくべきこと
3. Neuraceq の使用方法
4. 起こりうるかもしれない副作用

1. Neuraceq とは何か、何のために使われるのか

- この薬は診断専用の放射性医薬品です。
- Neuraceq は活性物質フロルベタベン(18F)を含有します。
- Neuraceq は、医師が脳 PET 検査と呼ばれる検査を行うため、記憶障害のある人、もしくは疑われる人に投与します。
- Neuraceq PET 検査は、脳にβアミロイドプラークがあるかどうかを判断するのに役立ちます。
- この薬剤は成人のみを対象としています。
- Neuraceq の使用は少量の放射線被ばくを伴います。医師は診断上必要とした場合のみ検査を行い、検査による被ばく量が必要最小限になるようにしています。

2. Neuraceq を使用する前に知っておくべきこと

- Neuraceq にはエタノールとアスコルビン酸ナトリウムが含まれています。

15vol%エタノール(アルコール)は、用量あたり最大 1.2g 含まれていて、ビールにすると用量あたり 30ml、ワインにすると 12.5ml に相当します。

アルコール依存症、アルコール不耐症の方はこの薬剤の使用は出来ません。

ナトリウム(食卓塩の主成分)は、用量あたり最大 33mg 含まれています。これは成人の推奨される最大 1 日摂取量の 1.6%に相当します。

<注意事項>

◎次の場合は事前にお知らせください

- アルコールにアレルギーがある。
→お酒が 1 滴も飲めない、極端にアルコールに弱い場合は検査が出来ないことがあります。
- 腎機能に問題がある。
- 肝機能に問題がある。
- 妊娠している。または妊娠している可能性がある。
→検査によるリスクを上回る利益が期待される場合にのみ、妊娠中でもこの薬を投与します。
- 授乳中の方は注射後 24 時間は授乳を中止する必要があります。
→この期間は母乳を搾乳し捨ててください。
→授乳再開の時期は、検査を担当する検査医にご相談ください。
- 内服中の薬がある場合は事前にお知らせください。

◎その他の注意事項

- ・注射後 12 時間は幼児や妊婦との密接な接触を避けて下さい。
- ・Neuraceq は車や機械の運転操作には影響を与えません。

3. Neuraceq の使用方法

<用量>

通常推奨される投与量は 1 検査あたり 300MBq(メガベクレル、放射能に使用される単位)です。

<Neuraceq の投与と検査の実施>

Neuraceq は静脈注射で投与されます。その後、生理食塩水で注射器やチューブに残った薬剤も投与する事で必要量を確実に投与します。

<検査に要する時間>

通常、Neuraceq が投与されてから 90 分後に撮影を行います。
およそ 20～30 分間、仰臥位にて撮影します。

4. 起こりうるかもしれない副作用

すべての薬と同様に、この薬も副作用を引き起こす可能性があります。

誰もが副作用を経験するわけではありません。考えられる副作用は次のとおりです。

◎10 人に1人程度発生する可能性があるもの

- ・注射部位の痛み、注射部位皮膚の発赤

◎珍しい(100 人に1人程度発生する可能性があるもの)

- ・全身障害および投与部位の状態:

発熱、灼熱感、四肢の不快感、四肢の痛み、注射部位周辺の強い痛みや不快感、

注射部位の血腫(あざ、注射部位の黒と青の跡)、注射部位の温かさ、倦怠感、熱感、血中クレアチニンの上昇(腎機能の低下)

- ・胃腸障害: 下痢、吐き気

- ・肝胆道系障害: 肝機能異常

- ・皮膚および皮下組織障害: 多汗症(過度の汗)、発疹、麻疹型紅斑を伴う急性皮膚障害、水疱や潰瘍を形成する皮膚障害

- ・神経系障害: 頭痛、神経痛(神経の走行に沿った激しい、断続的な痛み)、振戦(不随意的な震えの動き)

- ・血管障害: 紅潮(顔や首などの突然の発赤)、血腫(打撲傷、黒あざ、青あざ)、低血圧

*この放射性医薬品は、癌や遺伝性異常のリスクが非常に低い低線量の放射線をだしています。

*副作用とおもわれる症状がでた場合は、担当医に相談してください。

→この説明書に記載されていない副作用も含まれます。